

香取市総合計画審議会（第1回）会議概要

- 開催日 平成24年5月10日(木) 午後1時30分から2時45分
- 会場 香取市役所 7階 全員協議会室
- 出欠 出席：16人 浅野委員(代理)、柏木委員、高岡委員、城之内委員
大槻委員、亀谷委員(代理)、伊藤委員、小倉委員
根本委員、平塚委員、諏訪委員、中村委員(代理)
石田委員、安藤委員、長谷川委員、加藤委員
欠席：2人 堀井委員、鈴木委員

■ 会議概要

1 開会

企画政策課長の司会進行により開会

2 委嘱状交付

市長より、委員全員に委嘱状を交付

3 あいさつ

市長よりあいさつ

4 委員紹介

各委員より自己紹介

各職員より自己紹介

5 議事

(1) 会長・副会長の選出について

会長が選出されるまでの間、瀬宮企画財政部長が仮議長として、進行

会長には、佐原商工会議所の柏木会頭との推薦があり、異議なく承認・決定。

副会長には、現在は空席だが、自治会連合会の会長を推薦する旨の提案があり、異議なく承認・決定

議長交代 会長就任のあいさつ

(2) 後期基本計画策定方針について、(3) その他

後期基本計画策定方針について、事務局から説明

◆委員からの主な意見

【前期基本計画関係】

○前期基本計画からの積み残し、進捗状況等をなるべく早く明示してもらいたい。
積み残しや進捗状況を確認した上で、後期計画に関連させていく必要がある。

○進行管理が適切に行われる計画にするということであり、いわゆる政策評価がなされるべきである。前期5カ年のうち4カ年経過するので、4カ年の政策評価がどうだったのか検証が必要である。

○前期計画に設定目標が掲げられているが、設定目標の変更は考えているか。
設定目標の成果をぜひ開示してもらいたい。

【計画全体】

○震災後、住民の意識が変わってきた。絆や近所で一緒に何かやろうという意識が高まってきた。復興をメインに進め、震災後、市民が何を一番望んでいるのか、どう考えが変わったのかを把握した上で計画を練ったほうがいい。

○市民意識調査の中に買い物にどこに行くかという設問がある。また、町をどのように、何が必要かなどの設問がある。集計結果を出してもらいたい。

【人口減少・人口構成関係】

○総合計画を考える上で、人口の減少を頭に置いて計画を立てたほうがいい。地方都市も、地域から人口が離れていくと思う。

○人口減は、教育施設等の縮小を意味する。大きく充実するだけでなく、こじんまりして、ほかの部分に力を注ぐような計画があっていい。

○人口が減り、経済を縮小すればいいが、一旦広がったものを減らすのは困難であり、このアンバランスをどう埋めるかを総合計画の中に入れたほうがいい。

○若い力がない限りは厳しい状況である。

○若い世代に対して何らかの対策を立てていかないといけない。香取市の平均年齢が幾つかわからないが、それを一つのバロメーターとして考えていかなければいけない。

○若い人が勤めるところがないので、絶対的にここから去っていく状況は今後も変わらない。

○若い人たちの定着ということもあり、若手に大いに頑張ってもらいたい。

【原発問題関係】

○原発問題の行方を見定めないといけない。タケノコなどから放射性物質が検出され、今後サツマイモなどに影響があったら大変である。そういう点も計画に入れ、審議したほうがよい。

○原発の問題も未知数である。どういう影響が発生してくるかわからない。放射能は、低ければ安全だろうが、海外ではかなりいかがわしい食品もある。そういうものをどうするか、頭に入れて審議してもらいたい。

【学校統合関係】

○学校統合は進めなくてはならない問題になっている。

設備的なものは縮小すればよいものが残るが、それをどう活用するかが問題である。

○小学校は、すぐ近場になければいけない。中学校は遠くてもいい

○私のほうの地区では、小学校の入学生が6人という状況で、今後、社会の中で、競争に生き残れるのかということも考えなくてははいけない。地域で学校統合の話も出ているが、なかなか思うようにいかない面もある。競争に勝てる子供たちをつくるのが課題だと思う。多いクラスで切磋琢磨したほうがよい。

○学校帰りの道草の経験が大事である。バスで送り迎えすればいいものではない。先輩、後輩で喧嘩や道草をすることがとても大事である。学校統合は、十分検討してほしい。

○今年の入学生が10人切っている小学校が結構出ている、その場で一生過ごせるのならばいい環境だが、中学卒業後、出なければいけない子供たちが、6年間、あるいは9年間、5人か10人のクラスの環境でいいのかと考えるとどちらをとっていいのか。地域が子供たちを育てていかななくてははいけない時代なので、地域の人の意見が優先だと思う。

○子供は宝である。子供がいなかったらどうしようもない。できが悪くても良くてもその子供に将来を頼まなくてははいけない。

【地域福祉】

○震災以降、絆や地域力、お互いに見守り助け合い、いざというときにやっていくことが大事になってきている。ただ、高齢化が進んでいるため、地域でお年寄りのボランティアがさらに上の80代、90代の人面倒を見るという老人社会で助け合いを取り組まなければいけない状態になっている。若い人がいないので、ボランティアが50代から入れるような仕組みを社協でも考え、市でもそういった取り組みを支援してもらいたい。

○福祉、人間関係がうまくいっているところは住みよしい町になると思うので、若い人たちに希望と助け合いの精神が自然に体についてくるような政策がいいと思う。

○高齢者社会になり、高齢者の生きがいのあるボランティアが働ける場所をつくったほうがいい。無意味に過ごすのではなく、ある程度まで社会に尽くす制度を考えるのほうがいい。

○今、平均年齢は85とか75とか言うが、60過ぎの人達は、平均年齢は100に近い。60で老人は、早い。高齢者は90ぐらいになってからでいい。

○福祉は、ただ尽くされるだけでなく、自ら働くことも福祉の生き方だと思う。そのような政策もあったほうがいい。

○若い人が少ないなら、沢山いるシニア世代の活躍の場として、市民カレッジというのはいかがでしょうか。市民がお金を出して集まり、自分たちのまちのことを学ぶ仕組みである。まちのために何かボランティア活動や参加をしてもらうための素地づくりの意味合いで、様々な活動をしている人の話を聞いたり、一緒に参加したり、勉強したりする機会となる。

コストがかからない方法でうまく運営できれば、入ってきた人が、地域の力としてまちを元気にしていく力になる。

○市民カレッジの話は、福祉分野の老人の関係の意見にも通じると思う。

○香取市の中でも佐原は、お祭りがあり、祭りが地域の結束力の一つにはなっているので、香取市全域でそういう雰囲気ができるとうい。自分の生まれた町をいい町にしようとして残って闘ってくれると思う。

【雇用】

○この辺は、旦那さんの勤め先に鹿島や成田空港があるが、奥さん方が働く場所がないので、あるとうい。奥さん方が稼いだお金は、地元へ落ちる。

○小見川のソニーが撤退したが、大企業は、後の反応が大きいので、頼ってはいけない。小規模の職場、奥さん方が勤められる場所をつくるとうい。

【商業】

○若者が残らないのは、就職などで成田等に行ってしまうこともあるが、成田まで行かないと自分の欲しいものが買えないとういことが大きい。ショッピングセンターなど、買い物できる場所、若者が集まれる場所などが欲しい。

○香取市では、とくとく商品券を、ここ数年出している。数年続けて発行する団体は他になく、行政と市民とが一体となり、町のために発展するとういは非常にいい。

○私たちが都会へ買い物に行くのは、都会に珍しいもの、いいもの等があるとうい可能性のためであるが、地域をよく見ていなとういこともある。地域にもいいものはある。

【観光】

○これからの香取市は、交流人口（外からのお客様）がとても大事。しかし、来たお客様が道に迷ってしまうので、わかりやすい目印、サインをつけるべき。駅や水の郷さわらから、町の中までの案内等が必要だと思う。町に合ったものをお願いしたい。

○佐原については、多くの種類の地図が出ているが、一方通行の標示が少ない。佐原の道は、細く、一方通行が多いので、複雑で難しい。わかりやすい地図があつていい。

○道路標識は、以前、話があり、かなり標示がうまくできるようになった。しかし、他の観光地は、もっと標示がわかりやすく、素晴らしい。

○人が集まるところは標示がしっかりしている。

○「地図の町 佐原」と言っているので、地図にもっと力を入れ、駅ですぐ地図の配布や測量をしてもらうなどがいい。測量をして伊能忠敬になってもらうこともいい。

○「地図の町 佐原」のキャッチコピーは、伊能忠敬先生が日本沿海輿地図をつくった業績からきているが、地図をつくっている町という印象になってしまう。キャッチコピーというのは難しい。今、「江戸まさり佐原」というキャッチコピーを使っている。「江戸まさり佐原」は、どこが江戸まさりなのかと聞かれるが、何となく「江戸まさり」という雰囲気は漂えばいい。「地図の町 佐原」もそのようになっている。工場で地図つくっている町ではなく、日本の誇るべき偉人がいたことがわかれば、一般の人は愛着をもつと思う。

○佐原商工会議所が去年、全国512ある商工会議所の中でまちづくり型観光に対する賞のグランプリをもらった。まちづくり型は、市民が行政と一体となり、協働で一生懸命何かつくろうという姿が観光につながっているという評価だった。

【その他】

○東総道路は、成田空港も近いし、地盤もいいので、住宅が安くできる。東総道路を無料にし、若い人が住宅を建てる場所をつくれればいい。学校施設があれば、絶対によくなる。

○道州制にしないと、茨城の金がこちらにこない。道州制にすれば、東関東道などもあり、経営ができる。

6 閉会

企画政策課長の司会進行により、閉会